

★ 病棟紹介

あすなる学園は、Ⅰ病棟東、西とⅡ病棟に分かれています。今回は、Ⅰ-東病棟の特徴などについて、病棟責任者よりご紹介します。

Ⅰ-東病棟

看護師長 細野 弓子

ベッド数は27床です。職員数は、看護師17名で三交代制の勤務をしています。対象児の年齢は、幼児から高校生ままで幅広く、また、対象疾患も、発達障害児（小学生）が10名前後、統合失調症、感情障害、摂食障害、強迫神経症、行為障害、学習障害、被虐待児など多様です。年齢幅の広さ、疾患の多様性の中で、さらに西病棟の看護機能も含めて日夜、看護実践の展開をしています。

看護機能は、単に身体的ケアのみならず、発達障害児には個別指導としての排泄の訓練、偏食の指導、薬を飲む練習など基本的な日常生活指導から、グループ指導・親指導と多岐にわたります。起床から就床まで長時間、毎日くり返し行うことで「トイレで排便できた」「薬をお菓子の中に入れてみずくに飲めた」という、ひとつひとつが看護評価として子どもから示される毎日です。努力と忍耐の一言の日々です。

一方では、摂食障害児や被虐待児などの入院児がいます。厳しい行動制限の裏には、徹底した精神的看護、被虐待児には保護的な環境と保護的な看護の提供など、多様な疾患のひとつひとつに個別的なケアを要求されます。若い世代と熟年の世代が融合して日常ケアを継続させ、また、時代のニーズと新しい看護の分野を求めて常に研究の姿勢も忘れないのが東病棟です。



新任医師のご紹介

診療科医師 中野 克弘



今年4月よりあすなる学園にお世話になっています。平成7年卒で、こちらに来る前は名古屋市立大学病院精神科で2年間、児童思春期外来を担当しておりました。愛知県には児童精神科の外来を標

榜する医療機関は（潤沢と言えないまでも）あちこちにあるのですが、児童精神科の入院施設はほとんど無いに等しい状態でした（大多数の都道府県が同じような状況ではあります）。春日井コロニーは心身障害者コロニー中央病院という名前が示す通り、発達障害者を主な診療対象者としており、精神科病棟も備えてはいるのですが、10代以上の強度行動障害の自閉症者の入院施設として特化している状況です。あいち小児保健医療総合センターでも児童精神科の病棟が試験稼働を終えて、この4月から正式に稼働を始めていますが、逸脱行動の著明なケースや強度行動障害のケースを引き受けられる態勢ではないようです。他県からの入院依頼もしばしば舞い込んでくるこのあすなる学園という施設が、いかに貴重な存在であるかは、今更強調するまでもないことですが、着任して改めてその懐の深さに感じ入っている次第です。三重県での生活も今回の転勤に伴って初めて経験するのですが、関西弁に近い言葉に実は少々戸惑っています。私は学生時代は関西で過ごしているのですが、最後まで関西弁になじみずくに不適應を起こして名古屋に逃げていったという苦い経験があるのです。‘三重の言葉は関西とはまた違う’と、この話をするたびに人から言われるのですが、どうも違いがよく判りません。ただ、ポケや突っ込みを意識しなくても生活できるらしいということは判ってきました。こんな私ですが、どうぞよろしくお願い致します。